



Risk Flash No.24 (Vol.2 No.10)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
 発行責任者：リスク研究センター長 久保英也
 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1
 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189
 e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp
 Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 歴史の視点：彦根城下の寺子屋事情・・・Page 1
- 今週の論文紹介：投資家の「ギャンブル志向」は、日本の株価に影響を与えているか？・Page 2
- 教員紹介：大川良文・リスク研究センター通信・・・Page 3

歴史の視点

彦根城下の寺子屋事情

ほりいやすえ
 経済学部附属史料館助手 堀井靖枝

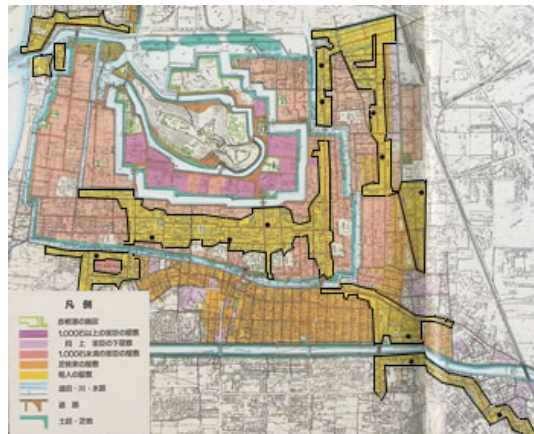
寛政8年(1796)、彦根藩主井伊直中は、中裁上片原町(栄町2丁目)の九郎左衛門以下12名の寺子屋師匠の願いに応じ、城下町民の教育レベルの統一と向上を目的とする「^{しゅせきしなん}手跡指南^{しよく}職」の株仲間を認可しました。この寺子屋とはちがう耳慣れない呼称には、教育に携わる者としての矜持がこめられており、昨年発見された指南職力石弥左衛門家に伝来した史料からは、「手跡指南職」とその仲間について多くのことをうかがい知ることができます。

文政7年(1824)から慶応2年(1866)までの43年間にわたり、代々の惣代(年番)の手で書き継がれた日記「公私史記」の冒頭には、寛政8年10月に奉行から付与された「御口達之^{ごこうたつの}うつし^{うつし}写」が記され、そこには第一に寺子屋教育が、孝道・行儀作法をも含めて行われることがうたわれています。繰り返し発せられた歴代藩主の「口達」も幼少期の教育の重要性を説いたものですが、別に仕立てた「御触書^{おふれがきのうつし}写」には、「お堀の魚は捕らないこと、相撲をとらないこと、石の打ち合いはしないこと、兄弟子は弟子を取り立てること、履物は揃えること」等々、さらに具体的な指示が加わり、当時の寺子たちの腕白ぶりが目に浮かんできます。

史記の記述内容は、奉行からの触書写、指南職交代時の書類写が大部分を占めますが、一例では、弘化3年(1846)、惣代が「扶持人」(藩士)の内職的な寺子屋行為で家業に障りがあると願い出た結果、子どもは町の師匠に返すよう

「町廻り中」(町人担当役人)へ通達されたということがありました。手跡指南職仲間に対する保護と教育のプロに指導を任すとの配慮からだったと思われます。

仲間の「定」では、師匠の体罰を逆恨みして転門した者への対応や門弟の囲い込みの禁止が掲げられ、この株仲間の特徴をよくあらわしています。株仲間の積立金でまかなわれた「年玉」は藩役人への年礼祝儀であり、今とは言葉の意味が異なっていますが、手跡指南職仲間の成員資格である「手跡」(師匠としての資質)はもとより「^{そまつ}疵抹」(いい加減)な人物でないこと”という条件は現代にも通じるものがあるのではないのでしょうか。



『彦根の歴史』(2001年彦根城博物館編集・彦根市教育委員会発行)「城下町色分け図」より「手跡指南所」位置を作図

今週の論文紹介

投資家の「ギャンブル志向」は、日本の株価に影響を与えているか？

著者：野村証券株式会社 うちやまとものり いわさわせいいちろう 内山朋規、岩澤誠一郎
日本ファイナンス学会第19回大会 研究報告論文

著者のつぶやき

実際の人々のリスクに対する態度は複雑で、必ずしも合理的には振舞わないことが指摘されています。例えば、50%の確率で110ドルを得られる一方で、50%の確率で100ドルを失う賭けの申し出があったとしましょう。期待値は正ですが、人々はこの賭けを避ける傾向があるとされています。次に、わずか0.12%だけの確率で5,000ドルが得られる代わりに、ほとんど確実に1ドルを失う賭けはどうでしょうか？前者と同様に期待値は約5ドルの正ですが、後者の宝くじのような賭けは好まれる傾向があるとされています。

こうした「ギャンブル志向」とでも呼ぶべき人々の選好は、経済学で伝統的に用いられてきた期待効用理論により説明することが難しいとされています。そこで、2002年にノーベル経済学賞を受賞したカーネマンは、トベルスキーとともに、こうした選好をモデル化するためプロスペクト理論を構築しました。これを証券市場に当てはめ

た場合、洗練されていない非合理的な投資家がこうした選好を持つとすれば、証券価格はどのような影響を受けるのでしょうか。これに関する既存の理論研究からは、宝くじのような特徴を持つ証券ほど、均衡において過大に好まれるために割高になることが示されています。

我々は、この理論的示唆に基づき、宝くじのような証券であることを表す二つの尺度を用いて、株価リターンと投資家行動の実証分析を行いました。まず、過去のデータから算出した尺度の値によって、宝くじのような証券ほど将来の平均リターンは低いことを得ました。また、洗練されていないと考えられる投資家ほど、宝くじのような証券を多く保有する傾向があることも分かりました。これらは、理論と整合的な結果です。本稿の実証分析は、人々がリスクに対して合理的に行動するためには、ファイナンス教育が重要であることも示唆しているといえるでしょう。(内山朋規)

図1 第1五分位と第5五分位のリターン差の累計

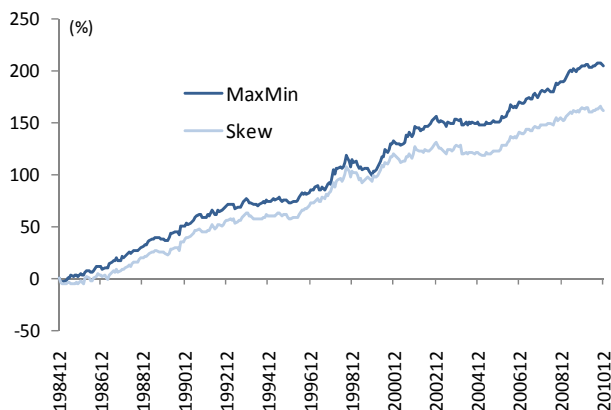
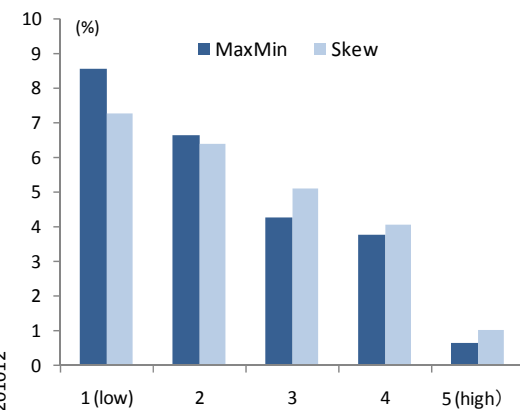


図2 五分位ポートフォリオの平均リターン (年率)



(注) MaxMin と Skew は、いずれも値が大きいほど、株価リターンの分布が宝くじのような特徴を持つことを意味する。東証1部上場企業を対象に、MaxMinあるいはSkewの値でソートした五分位ポートフォリオのパフォーマンスを表す。月次リバランス。

教員紹介 「大川良文」

(1) 現在の研究テーマ

私の現在の研究テーマは、多国籍企業の研究開発活動のグローバル化に関する経済理論モデルの構築と、外資誘致政策の経済効果の分析です。国際競争の激しさが増している現在、世界の多国籍企業は、国際競争力強化のために、積極的に外国に研究開発拠点を設立しています。このように企業の研究開発活動がグローバル化する中、各国は自国の技術開発体制の強化のために、優れた技術を持つ外資系企業の研究開発拠点の誘致に積極的になっています。私の研究は、このような企業による研究開発活動のグローバル化の要因と、外資系企業の研究開発活動の受入が受入国に与える経済的影響について、理論モデルを使って明らかにすることを目的としています。

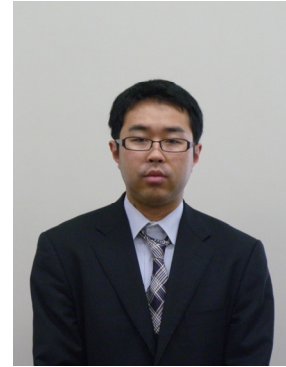
(2) 研究以外で最近関心のあること

「グロービッシュ」と呼ばれる非英語圏民が使う単純化された英語に興味を持っています。この英語は、単純な英文法と使用頻度の高い1,500語ほどの単語を用いて構成されているらしく、去年あたりからビジネス雑誌でも取り上げられているものです。英会話で苦労させられることが多い私にとってはとても魅力的に思えます。

(3) 研究における今後の抱負

研究に関しては、先に述べた研究テーマに関する研究を深めていきたいと思っています。

ます。それに加えて、教育者として国際経済学の基本的知見をもっと多くの人々に伝えていければと考えております。『選挙の経済学』（ブライアン・カプラン（著）日経BP社）によると、人々には外国との経済取引による利益を過小評価するという“反外国バイアス”があるそうです。実際に大学で講義をしていますが、グローバル化による経済的利益を話すときよりも、その弊害を話すときの方が学生の反応が良いときが多々あります。国際経済学者として、一人でも多くの学生や人々にグローバル化の良さをわかりやすく伝えることによって、“反外国バイアス”の解消に貢献できればと思っています。世界経済が停滞する中、人々の意識はどうしても内向きになりがちです。内向きな経済に発展の道はなく、広く世界の国々からモノ・カネ・人材・技術を取り入れる外に開かれた経済にこそ発展の道があることを伝えたいです。



おおかわよしふみ
(経済学科准教授 大川良文)

リスク研究センター通信

リスク研究センターセミナー報告

6月3日に金融庁検査局の秋田能行調査室長をお招きして、「金融検査を巡る最近の動向」に関するセミナーを開催しました。講師の経歴紹介の後、演題に沿って金融庁の紹介、金融検査の概要について簡潔に報告がなされ、次いでトピックスとして、「金融の円滑化」と「東日本大震災への対応」について、金融検査当局としてどのような考え方に基つき、どのような対応をとっているのかについて、解説がありました。

司会の鈴木康晴准教授から、「本日は金融庁の検査担当者をお呼びして、学生諸君は各金融機関が重視する金融検査の現状や、検査が直面する最新の諸問題の動向を理解するうえで貴重な機会となりました。金融検査はそもそも銀行業務の健全かつ適切な運営のためにあるとされますが、検査実施にあつ

ては銀行自身による経営改善に向けた取り組みを促進するよう行うべきとの考え方をされており、検査のフォーカスの仕方によって金融機関の経営者の経営方針ないしリスク管理の視点も変化しうるものと考えられます。よって、最近の検査マニュアルの変更などが、民間金融機関の経営方針やリスク管理にどのような影響を与えるのか、与えることとなるのか、こうした観点からも金融検査について、引き続き注目していく必要があると思われます」というまとめの言葉があり、セミナーは終了しました。



すずきやすはる
(文責 鈴木康晴)

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

※尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

※当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金秉基、久保英也、
澤木聖子、得田雅章、弘中史子、宮西賢次

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>